

太宰府 帥 親王任之 權帥略○中 北山抄云、爲尊親王爲太宰帥正、惟仲帥之時、以彼親王任他官、此事無謂、可任權帥也、何以正帥任他官哉、

〔日本書紀二十七〕十年正月癸卯、是日以大友皇子拜太政大臣、

〔日本書紀三十持統〕四年七月庚辰、以皇子高市爲太政大臣、

〔續日本紀三文武〕大寶三年正月壬午、詔三品刑部親王、知太政官事、慶雲二年九月壬午、詔二品穗積親王、知太政官事、

〔公卿補任文武〕慶雲三年、知太政官事二品穗積親王、二月辛巳、准右大臣、

〔續日本紀八元正〕養老四年八月甲申、詔以舍人親王爲知太政官事、新田部親王爲知五衛及授刀舍人

事、  
〔增鏡五內野の雪〕建長四年正月八日、院嵯峨の御前にて御かうぶりし給ふ略○中 御とし十一なるべし、中務の卿宗尊親王と申めり、おなじ二抄二、百練月十九日、都を出給ふ、其日將軍の宣旨かうぶ

り給ふ、かゝるためしはいまだ侍らぬにや、上下めづらしくおもしろき事にいひさわぐべし、

〔勘仲記〕正應二年十月九日、親王皇子後深草久明、今夜被宣下、征夷大將軍事、十日、今日將軍御下向關東、

先未明入御六波羅、八葉長物見御車、

○按ズルニ、此他宗尊親王ノ子惟康、久明親王ノ子守邦ノ二親王モ亦、征夷大將軍ニ任ゼラレ

タレド、此ニ略ス、官位部征夷大將軍篇參看スベシ、

〔神皇正統記後醍醐〕かくて親王村上後元服したまひ、直に三品に叙し、陸奥の太守に任じまします、

このくのにの太守ははじめたることなれど、たよりありとてぞ任じたまふ、

〔三代實錄陽成〕元慶六年六月廿六日丁酉、是日以一品行式部卿兼常陸太守諱孝親王爲左相

撲司別當、以三品行兵部卿本康親王爲右相撲司別當、兩親王下紫宸殿庭奉勅拜舞而出、